

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和4年	会計コード	10	一般	事業コード	38343
事業名	ウインタースポーツ普及振興費					
評価担当課	所属名	ス)スポーツ部 企画事業課				
	課長名	松島	担当者名	浅井	電話番号	011-211-3044
施策名	主	身近なところでウインタースポーツを楽しむことのできる環境が充				
	副					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外		
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	①料金助成②学習支援は、子どもたちがウインタースポーツに親しむため。 ③観戦文化の醸成は、市民がスキージャンプを身近に観戦できるため。				
		札幌市のスポーツ文化の一つであるウインタースポーツを「する」実施率を高める。 ウインタースポーツを「みる」文化を定着させる。				
	取組内容	①料金助成:スキーリフト(小学生、年1回1,000円分)、スケート貸靴(小学生、年2回各300円分) ②学習支援:Aスキー学習インストラクター派遣(中学・高校・特別支援学校の授業、小学・中学の肢体不自由のある児童生徒)、B歩くスキー出前授業(小学の宿泊学習)、C地域スポーツ指導者派遣(小学授業へ有償ボランティア派遣、中学授業へ指導者派遣) ③観戦文化の醸成:大倉山ジャンプ競技場において開催されるスキージャンプ大会の観戦環境の充実				
実施結果	①料金助成:スキーリフト17,853枚、スケート貸靴5,556枚 ②学習支援:Aスキー学習インストラクター派遣81校・751人、B歩くスキー出前授業指導者派遣15実施校・126人、C地域スポーツ指導者派遣中学校19校・517人、小学校57校321人 ③観戦文化の醸成:観戦用椅子の設置、フードエリアの設置、LINEでの大会情報の発信など					
事業実施における工夫点	競技団体や索道事業者等との連携を図ることで、実情に即した有効な取組とする。					
対象者	①②は児童生徒、③は市民全般			開始	0 年度	終了 0 年度
関連法令・条例・要綱等	スポーツ基本法					
他都市の状況						

◎事業費

(単位:千円)

	令和3年度決算	令和4年度予算	令和4年度決算	令和5年度予算
事業費	145,681	201,000	146,022	62,000
うち特定財源	11,272	160,000	109,848	10,012
人工	1.9	1.7	1.7	1.7
人件費	13,680	12,240	12,240	12,070
計(事業費+人件費)	159,361	213,240	158,262	74,070
事業費の内訳	令和4年度決算	・さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成 20,480千円 ・さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業 108,259千円 ・地域スポーツ指導者活用事業 2,783千円(小589千円、中2,194千円) ・観戦文化の醸成 14,500千円		
	令和5年度予算	・さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成 26,335千円 ・さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業 10,012千円 ・地域スポーツ指導者活用事業 1,821千円 ・観戦文化の醸成 17,090千円 ・札幌市スキー遠足パッケージ 6,742千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1		指標名	直接スポーツ観戦率(18歳以上・年1回以上)				
		令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定		
		22%	50%	32%	50%		
活動指標2		指標名	ウインタースポーツ実施率(18歳～49歳・年1回以上)				
		令和3年度実績	令和4年度予定	令和4年度実績	令和5年度予定		
		20%	25%	19%	30%		
成果指標1		指標名	インストラクター及び指導者の派遣人数(累計)				
		令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標		
		9,410	10,400	11,125	12500		
成果指標2		指標名					
		令和3年度実績	令和4年度目標	令和4年度実績	令和5年度目標		
項目	判定	理由					
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	・リフト料金助成の対象拡大による小学生のスキー体験機会の創出、市立学校のスキー学習バス増便分支援によるスキー学習の実施維持を図る取組は、コロナ禍において子どものウインタースポーツを「する」活動に寄与した。 ・大倉山ジャンプ競技場で開催されたスキージャンプ大会に多くの方が来場し、ウインタースポーツを「みる」文化の定着に寄与した。					
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	当初事業について、実施規模としては適切であったと考える。					
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	・各スキー場、スケート場に協力をいただき、効率的に実施できている。 ・スキージャンプ大会における各種取組に関しては、競技大会の運営主体である札幌スキー連盟が当事業を実施することが適切と考える。					
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	・助成事業の認知度及び利用率について、年々向上している。事業の認知が広がることで、更に評価が高まっていくものとする。 ・ジャンプ大会の観戦文化醸成の取組について、来場者および選手からも好評を得ている。					
市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☒ 評価 ☐ 対象外 市民参加結果への対応 ☐ 回答 ☒ 反映						
今後の改善点	・広報内容を更に充実することで、利用率の向上や事業内容への理解を高めていく必要がある。 ・中学校におけるスキー学習実施校が減少しているため、ウインタースポーツ実施率の低下が懸念される。						
前回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
今年度取り組んだ見直し内容	・スキー遠足パッケージ事業を新設し、ウインタースポーツ実施の動機付けを図る。 ・未就学児スキーレンタルセット料金助成の認知度向上を図る。			見直し効果額 (前年度)	0 千円		
今回の評価	☒ A ☐ B ☐ C ☐ 評価省略対象事業・前年度実施なし						
評価の理由	子どものウインタースポーツを「する」活動、子どものから大人までのウインタースポーツを「みる」活動に対し、実施維持・促進を図る取組ができた。						
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	☒ 改善 ☐ 現状維持 ☐ 休止・廃止					
		・スキー学習の拡大及び維持に向けて、派遣インストラクターの増加を目指す。					
	予算	☒ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ その他			見直し効果額		0 千円
		・新たに未就学児の保護者へのスキーレンタルセット料金助成を実施する。 ・スキー学習の派遣インストラクターの増加に向け、拡充を検討する。					0 千円